

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじいろスクエア・せとうち 児童発達支援センターひよこ		
○保護者評価実施期間	2026年1月9日		～ 2026年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	49 (回答者数)	37
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		～ 2025年12月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11 (回答者数)	11
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎日通園と並行通園(母園があり週に1・2回通園する方)の2つの通園制度	○単独通園…東備地域で唯一の「毎日通園」が可能な児童発達支援センターです。保育園等のように毎日通い、継続して個別や小グループで専門的な支援を受けることにより、基本的な生活習慣の獲得・対人コミュニケーションスキルの積み上げ・運動機能の向上等、を通してお子様の成長発達を促す。 ○並行通園…小グループの療育で力を伸ばしていき、社会的ルールやマナーを学び社会性を育てる。	単独通園での利用児の発達に合わせて、並行通園(保育所通園との併用)に切替を行う等、利用児の成長にあわせて環境を調整することができる。
2	保護者(卒園児、現役)の交流の場	本所のホールを提供し、保護者が交流できる場を設けています。一緒に単独通園に通う保護者が集う「ひよこカフェ」、単独通園を卒園した保護者が集う「にわとりカフェ」、在園児と卒園児が一同に集う「コラボカフェ」の場を提供している。	利用児の成長発達における個別の相談援助、親子療育や保護者学習会等、保護者が子どもの特性を理解した関わりを学べる場にする。
3	児童発達支援ガイドラインの基準を上回る複数の専用室・活動スペース	本所では、居室の他に遊戯室、多目的室があります。遊戯室には屋内トランポリンやブランコ等の大型遊具がある。中庭には滑り台や鉄棒などの施設があり、これらを用いて運動感覚や社会性を学ぶ機会を設けている。	複数の部屋やスペースと複数のプログラム(感覚統合プログラム、コミュニケーション小集団、運動療育、個別課題の集中タイム など)をマッチさせてわかりやすい場とする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者との連絡・情報提供のIT化	保護者との連絡は連絡帳や帰宅時の会話等で引継ぎを行っている。送迎児に利用者の受け渡しが重なった場合に十分に伝達の時間が取れない場合がある。	登園・降園時には手書きの連絡帳を通して情報共有に努めているが、迅速な連絡体制を整えるため、手書きからITを活用した様式へ段階的に移行し、即日状況を共有できる仕組みの導入を検討をすすめる。
2	アセスメントスキルのあるスタッフの充実	社会生活スキル、行動面からのアセスメントを強化する	次年度より時間割を変更して研修ができる時間を増やし、太田ステージ等のアセスメントスキルのあるスタッフを増やす。
3	個別対応が多いため人員不足感がある。保育士を中心とした配置であり、作業療法士、理学療法士等の専門職がない。	重度の障害を持った児童を受け入れており、個別対応が必要となっている。事業所は保育士を中心として発足しているため、保育園的な運営体制が基本的にある。	人員の追加を行いセンターとしての機能強化をした上で、多職種採用を行いたい。